
特別講演1

新型コロナウイルス感染症を考慮した糖尿病患者に対する運動療法 — 我々、運動指導者がすべきことを考える —

河江 敏広 (東都大学幕張ヒューマンケア学部理学療法学科 講師)

【要旨】

我が国における糖尿病患者数は1000万人を超え、今後高齢化が進むにつれてさらに増加することが予測されている。糖尿病治療において、運動療法は血糖コントロールを良好にするために重要な治療法であることから、個別や集団での指導が各施設で実施されている。一方で2020年4月に入り新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染拡大防止のため、緊急事態宣言が発出されことを受け、3密を避けることや外出自粛などが要請されたことから、運動施設の一時閉鎖や患者の身体活動量の低下などが認められるようになった。実際にロコモチャレンジ推進協議会による新型コロナウイルス感染症による運動への影響に関する生活意識調査では、昨年度と比較し「外出減」は52.6%、「運動減」は40.3%の対象者に認められたことを報告している。そのため、運動指導スタッフはこのような状況の中でも患者の身体活動量を維持することや自宅でも運動を継続できる手段を構築する必要があると考えられる。5月に入り、緊急事態宣言は解除されたものの、今後も長期にわたり糖尿病の運動指導に関わるスタッフはCOVID-19に関する正しい知識に基づいた運動指導を行うことが望まれる。今回、ここではCOVID-19と糖尿病の関連やコロナ禍における糖尿病患者に必要な療養指導を踏まえて、新しい生活様式の中でも実施可能な糖尿病の運動療法について述べる。

【プロフィール】

河江 敏広 (東都大学幕張ヒューマンケア学部理学療法学科 講師)

〔略歴〕

平成13年 岐阜保健短期大学理学療法学科卒業平成17年 名古屋掖済会病院退職
平成19年 広島大学大学院保健学研究科博士課程前期修了
平成22年 広島大学大学院保健学研究科博士課程後期修了
平成31年 広島大学病院診療支援部リハビリテーション部門退職

〔資格〕

認定理学療法士(代謝)、専門理学療法士(内部障害)、日本糖尿病療養指導士心臓リハビリテーション指導士、三学会合同呼吸療法認定士

American Heart Association BLS instructor、American Heart Association BLS trainer

〔その他〕

<https://researchmap.jp/ktoshi/>